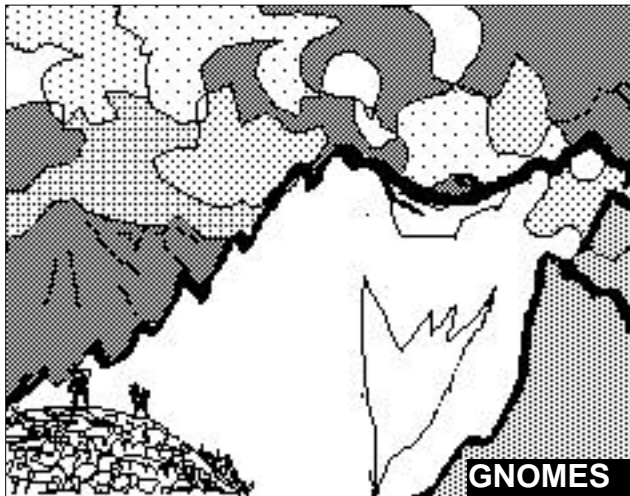


ノーム通信51

2000-9

〒130 0026 東京都墨田区両国4-30-4-1109



9月になった。今まで寝る間もないくらい忙しかったものが、ぱったりと途絶えて毎日ゆっくりしている。たまに調査で現場へ出たりするくらいでこんな日々はめずらしい、さて、こういう時に出来ることをやろうと思いついた。毎月押せ押せで出している子供達の作文教室「まなざし」の見直し、考え方をもう少し明確にして、もっと楽しくやらなければつまらないし、もっと夢のあるものをつくりたい。沢山の協力していただいている人たちとももっと効率良く連携プレーをしたい。

あとはもう出来ているホームページをプロバイダを決めてアップロードしなければいけないのだけれど画像が多くて AOLでは対応出来ない。そこをなんとかする。

10月は久しぶりに製本をやろうと思っていますのでついでに教室も行きます。旅用の正方形のスケッチブックをつくりま

す。参加されるかたはどうぞ。

あと作りかけの絵本がたくさんある。いつも宿題に追われているようで万一血圧で倒れたりしたら中途半端で困るからつくらなければいけないのだけれど、もうめんどうだからホームページで出すだけにしようとも思う。しかしモンゴル編のみはせめて一緒に行った人たち分くらいはつくってまたみんなでのみながら楽しみたい。2年に渡って一緒に行ってくれた友人達への感謝を形にしたいのです。モンゴルでは石にスケッチしてたくさん持って帰ってきたのでこれはもちろん土産にしましたがそれ以外に小さな絵本があってもいい。

この前30年ぶりに徳本峠の小屋に泊まって小屋の人と心地よく話せて良かったのだが、夜中やその往復のバスや列車で心臓の後ろが急に痛んでなかなか収まらずちょっとそろそろ身をまとめておいたほうが良さそうだと感じた。背中少し左に拳を挟んで圧迫しているとしばらくすると落ちついてくるが、ネパールでも激しいバスの揺れで動き出した結石を同じように圧迫していたのを思い出した。石なら痛むだけだが、心臓や脳ではどうしようもないな。あまり迷惑かけずにいきたいものだ。一人だったらそれで済むが回りに人がいるところで倒れたりしたら強制的に医者へつれていかれて管だらけにされるのはいやなこったと考えていた。

しかし小屋の主人は気持ちの良い人で、もうかなりかしいでしまった小屋をなんとか持たそうとつかいぼうをしたり、残り少なくなった水を確保しようとちょろちょろとしか出ない水源まで何度もいったりしていた。もうひとり越谷に家があるじーさんは布団のあげおろしや炊事の手伝いをし、週末は横浜の商事会社のOLが仕事が終わってから毎週手伝いに来てくれていると言っていた。人が集まるのは主人の人徳だろうと思う。しかしあの傾いた小屋をなおせないものかな。たった1m程度の窓枠の上と下で10cmも差があって三角形の板でふさいでいるのだから。未だにポンプでの水上げをしないところといい、ここにも一人生きるのに不器用なのがあるなと話しながらほほえましかった。

北アルプスはしかし美しいが青春時代のはじけるようなみんなの笑顔が次々と思い出されてせつない。あれから今までおまえは何をしてきたのかと、明るく広がった緑の中で一人厳しく問いつめられて慄然とする。ひとつ来春は新しい友人達と行ってようか。屏風のコルの花畑を超えて行ってみよう。また新しい青春をつくって来ようと思う。なにまた青春後期をはじめればいいのか。いついってもくいのないように

10月の「ノーム工作室」は21、22日あたりにやろうかと思いますが場合(穂高に行くかも知れない)によったら28、29にやるかもしれません希望の形は電話で連絡をお願いします。1日2500円+実費でおこないます。場所はノームプランニング(JR両国駅東口から徒歩5分、京葉道路ぞい、本所警察隣、永谷寄席の上11階9号室)です。

TEL/FAX 03-5600-0195

高村 哲

GnomesJpn@aol.com